

全国的に麻しん（はしか）流行のきざし！

今年の3月から沖縄を中心に麻しんの流行がみられています。その後愛知でもがふえ、5月19日現在149名が発症しています。ワクチンが普及し、日本からの土着株はなくなり、2015年日本はWHOから麻しん排除認定をうけました。臼杵市では2007年の発生以降ありません。近年国内で発生している麻しんは海外から持ち込まれたものです。麻しんは非常に恐ろしい病気です。今回は麻しんのお話しをします。

Q1. 麻しんはなぜ恐ろしい病気なのか？

麻しんは免疫のない方がかかると死に至ることのある病気です。麻しんは根治療法はなく、また感染力が強いため次々広がっていきます。ウィルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。空気・飛沫・接触で感染します。免疫を持っていない人は感染するとほぼ100%発症します。免疫を持っていない多くは、1歳未満の乳児なので、赤ちゃんにとってはとても恐ろしい病気なのです。

Q2. どのような症状がでますか？

感染するとおよそ10日後に発熱や咳、鼻汁、目やにといった、「普通の風邪をひいた？」と思うような症状からはじまり、2~3日熱が続いたのち、高熱とともに全身に発疹が出ます。現在はワクチン接種されている方が多いので、症状が軽い場合がありますので注意が必要です。

Q3. 麻しんの診断は？

麻しんの診断は、インフルエンザのような、迅速検査ではありません。麻しんの可能性がある場合は、医療機関受診後、保健所で精密検査をおこない、その後の結果で診断がつきます。



Q4. 麻しんワクチンを追加接種した方がよいですか？

現在28歳以下の方は、麻しんワクチンを2回接種している年代なので、通常は追加接種の必要はありません。29歳~40歳までは1回接種の世代になりますので、麻しん罹患歴がはっきりしない場合は血液検査で抗体を調べ、抗体が低ければ予防接種の対象となります。

生まれた年（年齢）によるワクチン接種状況

平成2年4月1日以前に生まれた人（今年29歳以上）	定期接種が行われていない世代（40歳以上）または定期接種1回のみ世代（30歳台）
平成2年4月2日以降に生まれた人（今年28歳以下）	定期接種として2回のワクチンを接種

* 定期接種が行われていた年齢の中にも、接種されていない方がおりますので、接種歴は必ず母子手帳でご確認してください。
(麻しん・MR・MMRの3種類があります)

Q5. どんな人は、医療機関等に相談が必要ですか？

1. ワクチンの接種歴がない、または不明
2. ワクチンを1回接種しかしていない
3. 麻しんにかかった記憶がない

このような方は抗体検査やワクチン接種の必要性については、かかりつけの医師に相談して下さい。

※当院ではMRワクチンの接種は、小児を最優先とさせていただきますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。